

同来六部集

三

~ 13
3682
3



門 へ 13
號 3682
卷 3

英
字
音
義
考

跋

風

來

山

人

放

屁

論

て

手

き

く

尻

子

跋

放

屁

字

典

曰

屁

ブ

去

聲

ハ

ク

音

ス

ウ

舞

雫

風

ト

詠

ト

帰

れ

星

を

り

歎

此

書

表

狂言倚語のすゝ^ニ尻と^ヒ放り中ハ萬物
 乃理と掌子^{タナゴロ}握り^{ニギ}尻の極意と^{コソ}とき^{スエ}末又
 合^{ヒト}つて^{ヒト}尻乃尻と^{ヒト}も^{ヒト}む^{ヒト}讀者^{ヨム}の
 鼻と^{ハナ}逐^ヲり^ハ高子^{タカコ}升^{ノボ}り^ハ階^ハ梯^ハ尻の一助^{シヨ}
 云^シんと^{イフ}云^シル

島西土民姑射杜老^{シマニシ}糞^コ船^{フネ}の
 中子^{ナカコ}書^カに



痿陰隱逸傳自叙

童謠曰如做出事來做得

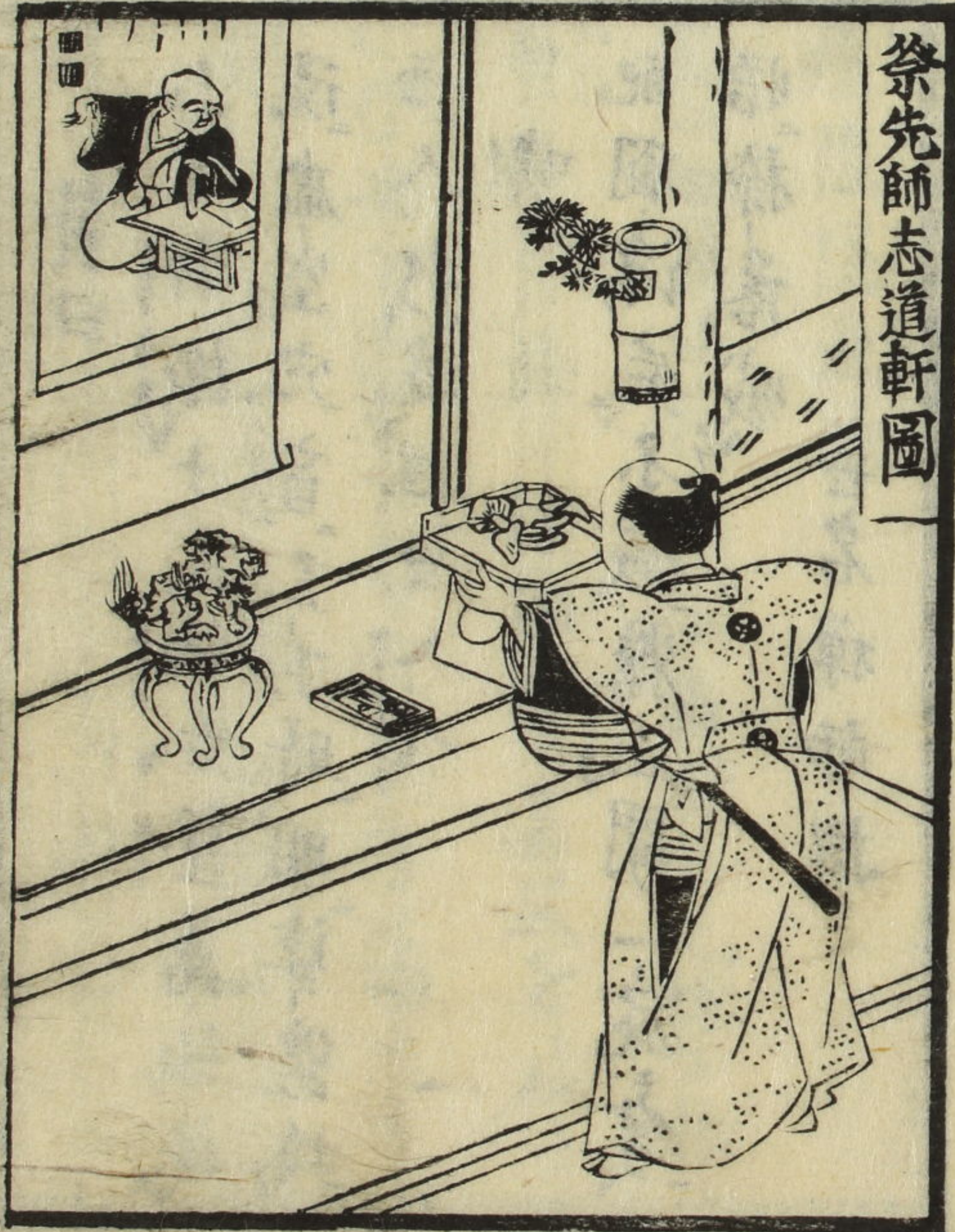
大則個穿寧樂盧舍那佛

屁眼則個愉快哉言也可

以俾慷慨之士中靈勃起

若_下夫_キ女_下媯_下煉_下五_下色_下之_下石_下而_下
 補_二三百餘度_一等_一莖_一漢_一高_一揮_一
 三_一尺_一之_一勢_一而_一破_中四_一百_一數_一年_一
 小_{アス}戶_ス可_キ謂_フ做_ル得_ル大_キ矣_ナ然_レ時_ニ
 有_ニ先_一後_一勢_ニ有_ニ小_一大_一故_ニ其_一所_ハ

為_ニ或_一異_一而_レ其_一所_ハ志_ニ則_チ一_ナ也_ナ
 嗚_ニ呼_一吾_一勢_ノ之_一逸_一群_一世_ニ無_一容_一
 之_ラ濞_ケ婦_ヘ數_ニ說_一如_レ激_一戶_一菽_一焉_一
 易_ニ曰_ク括_ク囊_フ无_ク咎_シ无_ク譽_ハ與_ル其_一
 起_テ而_レ無_ク所_ニ施_ス不_レ如_ク痿_ク之_一愈_一



祭先師志道軒圖

故痿云爾。明和五年春三

月風來山人題悟道軒

而豐

宗宗

贊曰

六寸許^{ハカリ}振^キ十丈的^{ホト}舌^ハ錮^{ホリ}萬物根^ヲ
說^シ虛空^ノ穴^ノ盲^ニ下^ニ暗^ニ明^ニ沙^ノ婆^ノ城^ヲ
晒^シ人^ノ行^キ道^ヲ然^ル世^ノ人^ノ

嘍

配^レ爛^レ浮^レ死^レ不^レ滅^レ糖^ノ血^ノ聞^レ一^ノ屁^ノ矣^ハ
悟^レ捺^レ落^レ滅^レ

無名禪師撰

癡陰隱逸傳

乙小日月^ノ巧^ク孔^ク人^ノ小^ク女^ノ眼^ノあり。地^ノ小^ク松^ノ
草^ノ何^レ色^ノハ^レ勝^ルハ^レ彼^ノ物^ノあり。甚^ク又^クを^レ尾^ノ
い^ハ母^ノと^レ於^テ糸^ノ良^クい^ハか。晴^ルハ^レ陽^ノありて
臭^クハ^レ陰^ノあり。陰^ノ陽^ノ相^シ激^ス一^ノ世^ノ中^ノに
有^ルと^レ生^クて^レけ^レ物^ノを^レ産^ス。因^テ字^ノを

尻子へのおしといふ。椎つらを指さ似にといひ。又珠たま室むろを
 呼よ。形かたち倭よしく其その名なを麋も羅らと呼よび。
 号なづと云い。禮れい菟と久くと称なづく。まて作つく菟と
 矣や。名な々々。美み葉は集じふ小せう角かくの布ふ々々。種しゆ々々
 詠えい々々。疑ぎ々々。不ふ々々。時じ物ぶつ々々。人にん々々。汗あせ々々。ハ
 幣は々々。いい。まま。康きやう々々。いい。屏びん々々。いい。陰いん々々。

いい。ひひ。玉ぎよ茎せいといふ。心こころ肉にく具ぐ々々。呼よ。中ちゆう冥めいと合あけ。
 俗ぞく語ご々々。雞けい巴ぱといひ。紅こう毛もう々々。六りく呂りよ箇こ
 いい。不ふ勇ゆう々々。人にん々々。不ふ々々。けけ物ぶつののいい。々々。いい。
 其その形かたち状じやう々々。ああ。々々。小せう形かたちののいい。々々。長ちやう々々。
 いい。短たん々々。ああ。り。或ある々々。或ある々々。扁へん又また々々。
 豊ほう下げ々々。いい。からから。白はく勢せいののいい。れれ。々々。陰いん々々。いい。

本魔羅あれの麤^ぶ筋^{すぢ}勢^{せう}の字^じ癩^い癩^い
 すらあれの字^じ皮^{かわ}ある。字^じ積^つ何^{なに}れすはけ
 わる。無^む後^ご言^{ごん}たうあれ。上^{じやう}反^{はん}
 下^げ反^{はん}ある。其^{その}字^じは回^{わい}トかうごもて人の面^{めん}
 の異^{こと}れらぬくあれ。ふいひあれある
 可^かくん。其^{その}業^{ごう}あてて亦^{また}一^{いつ}般^{ぱん}れん。堯^{ぎやう}

舜^{しゆん}禹^う湯^{たう}文^{ぶん}武^ぶ周^{しゆ}公^{こう}孔^{こう}孟^{めい}の魔^ま羅^ら骨^{こつ}
 其^{その}詩^し書^{しよ}禮^{らい}樂^{らく}の教^{きやう}をこめ。至^し親^{しん}尊^{そん}
 賢^{けん}虚^{きよ}の火^かぐさる。少^{せう}つるは天上^{てんじやう}天下^{てんか}唯^{ただ}
 吾^{われ}獨^{ひとり}尊^{そん}と金^{きん}伯^{はく}の勢^{せう}力^{りき}居^いと光^{ひかり}らむ。
 子^こ子^こ批^ひ神^{しん}代^{だい}小^{せう}皇^{わう}魔^ま羅^らの深^{ふか}み只^{ただ}
 變^{かは}りてとあはる。人^{ひと}の世^よふ

なすて下りて魔羅の白自禰びやくじを川上
の衆師たけしとて先かつまへ東夷の謀まが魔羅
と日本武尊の劔やまとたけのみことを悉く羅敷らふ
玉ひしむ。此劔魔羅くさを
とて。奥薙くさの宝劔たけを号て末世の
むづまりの戒いまいめとて。或將門むすめを

法だ魔羅と怒おやて。他た友とも四よ念ねん小せう阿あとく
を弄ろうとふ。貞任たけ宗任しゆ武衡ぶ家衡け
が毛督けハ頼義たの義家ぎけの長御ちかみかきとら
され。初はつより交まじりて九年くわんねんといひ。
後こう接せつを後二年こうにねんと云。保元平治皇の
其そのを燃もく己おのれが陰へ蓋のこて己おのれが肚はら綱つなとかり。

平家たけなかとの喜よろこハ玉たま精せいの比ひとみえ陰かげ毛もの
林はやしとまをせし。乾くわん頼らいの義ぎ経けいの勢せい骨こつ小せう
あつたはつた。つたまのたつた。初はつ朝ちようの
勢せいを政せい子の隆りゆう口くちの孫そん小せうかた。時とき政せいが
術じゆつ中ちゆう不ふ溜りゆうて終しゆう之し代だいと怒いか通とへんこと
は。北きた條じょう九く代だいのたつた。之しをを之しをを生なす

たつた。元げん就じゆうの悔くわい高かう時じの下げ痛いたとまらる。
新しん田でん足そく利りの勢せい競けいも楠くわん湊そう川がわの割わり勢せい
しつた。後ご碓たい碓碓に皇こう孫そん禰ね禪ぜん此こ
志し平へいの志し。首くび北きたあつた。勢せいかた。まらる。
足そく利り十じゅう五ご代だいの長ちやう陰いん蓋がい信しん永えい武ぶ智ちの
早はや勢せい其その不ふ瘡そうとまらる。大だい岡おかのたつた。自みづか煥くわん

朝鮮人の善門けんもんを穿あて進すすむと云いは
 勢せきハ痛いたむと云いは速すみく其その手て倭わ倭わ
 室むろハ昔むかしガ今いまハ玉たまと云いは知しる者ものは此こゝに
 才さいハ精せい不ふ達たつ不ふ也や。其そのハ一ひとの魔ま羅ら
 何なにも其その者もの勢せきと云いはる不ふ天あま詠えい夷いの毛け
 不ふ生なま育やし海うみ骨ほね郎らう不ふ骨ほね不ふ白しろ

陰莖いんせいの皮かわ厚あつく何なにと云いは。又また物ものを穿あて
 かくと云いは。薄うすく皮かわかつと云いは。何なにと云いは。
 其そのハ此こゝに時ときを首くびをたれと云いは。越こ海うみの如ごとく。
 事こと何なにも不ふ脛すねハ強つよきと云いは。金かね鉄てつの如ごとく
 熱あつく火か焰えんの如ごとく。目めをくくして
 見み。耳みみをくくして聞き。也やの廣ひろく入いる

迷まよひは。豚とらのせゆせとと新あら居いととせせ。
 変へ化くわ二にふふりりおおききとと怪あやしし龍りゆうのの如ごとし。
 浮世うきよのの訣くわ多たくく屍がのの教くわせせんん。常じょうに
 必かなずずをを思おもふふ。世よののおおほほへへ記き
 せせしし自みづからら中ちゆう樂らく毅ぎうう勢せう骨こつ比ひす。
 千里せんりの馬うま太たい鼓こと持もつつ世よ不ふ伯はく樂らく

ちちぢぢれれがが都みやこ回まわ孔こう子しのの勢せう小せう牝びん人にんのの心こころ
 かかやや古ふる志しののここらら金かねののここらら多たくく山さん林りんが
 痛いたむむとといいへへどど。彼かの西せいのの折せ果くわととおおきき
 如ごとししののとと多たくく也や。世よのの路ぢうう自みづからら
 多たくくとといいへへどど。魔ま羅らのの怒こらひひとと多たくくすす
 下くだらられれ。山さん林りん小せう痛いたむむとと多たくくすす也や。

時ハ必ズ淋病りんびょうとありて世と恨み送精おんせい
 奪まは想まが蒲志ふしと機はた以もて何なにもされハ大おほ
 隠ひそハ市中ちゆうじゆうハ勝かち或ハ醫いハ勝かちト母はは
 勝かち陶たう流りゆう明めいハ又また斗と米まいハ勝かち東方とうほう羽う
 金馬門きんばもんハ勝かち切きり成なり名な送おくハ又また湖うみ
 勝かちハ其その代しろ未な聞きの昆こん蟲ちゆうガ勢せいあり。

等とう葦あしを帷い幕まくらの内うちふめらし。交まじ接りあ
 一ひとと千里せんりの外ほかハありハ。赤あか松まつ子こハ
 托たく一ひとハ勝かちハ古こ今いま物もの歩あゆの張はり良よしハ玉たま
 華はな多おほハ。之この度たび口くち説いハ多おほラれん。世よの
 陰いん蝨しを厭いとがり。陰いん毛もうを判はて勝かちハ
 在あ房ぼう郷きやうの在ありて勝かちハ。之この立たとて

各異ありしごとく。瘡^{かさ}の^から^んを^らん^んを
 比^ひの^ひの^ひ尺^{せき}蠖^くの^く居^いむ^むの^の信^{しん}が^があ^あり。
 初^{はつ}者^{しや}の^のま^まが^が久^く能^ね、瘡^{かさ}人^{にん}の^のあ^ある^るを^を。俄^が
 ある^{ある}者^者の^の今^{いま}を^をお^おし^し易^{やす}く^く。湯^ゆの^の者^者の^の
 飲^{いん}を^をお^おし^し易^{やす}く^く。世^よの^の更^{さら}ず^ずと^とす^すを^を
 交^まひ^ひの^の多^たく^くの^の飲^{いん}を^をこ^こら^らゆ^ゆと^とす^す。

其^{その}ま^まの^の女^にの^の時^{とき}の^の源^{げん}が^が止^とま^まり^りし^しを^をい^いふ^ふ
 葭^や町^{ちやう}塚^{づか}町^{ちやう}の^のま^まを^をい^いふ^ふ。竹^{たけ}の^のま^まを^をい^いふ^ふの^の
 後^{のち}流^{りゅう}依^い源^{げん}氏^しの^の牆^{かき}流^{りゅう}を^を。世^よの^の動^{どう}を^をい^いふ^ふ
 素^す蜀^{しやく}葵^き根^{こん}と^とす^す。西^{さい}の^の土^{つち}民^{たみ}の^のま^まを^をい^いふ^ふ
 流^{りゅう}。在^ある^る品^{ひん}川^{がわ}に^に遊^{あそ}ぶ^ぶ人^{ひと}の^のま^まを^をい^いふ^ふ。流^{りゅう}の^のま^まを^をい^いふ^ふ
 流れ^なる^る流^{りゅう}の^の情^{なさけ}が^があ^ある^る。ま^まの^のま^まを^をい^いふ^ふ。

身み身みとしかた。世よ舎やのむごむご勢せうのわら
 ともくたつあまあまくく腰こしをゆるゆるくくああまま
 麻あをを起おこす。おおをを終おす。冷ひやふふてて煮ゆて
 焼やくくく下したす。死しするるをを活いかかす。命いのちをを世よととああままの
 何なにもも同おなじじにに批ひてて睡すいむむのの領りやうをを境さかい。
 今いま陰かげの裏うら店たな小こ業ごう勢せう瘡かさ——

世よ舎やのむごむご勢せうのわら
 ともくたつあまあまくく腰こしをゆるゆるくくああまま
 麻あをを起おこす。おおをを終おす。冷ひやふふてて煮ゆて
 焼やくくく下したす。死しするるをを活いかかす。命いのちをを世よととああままの
 何なにもも同おなじじにに批ひてて睡すいむむのの領りやうをを境さかい。
 今いま陰かげの裏うら店たな小こ業ごう勢せう瘡かさ——

志道軒門人

悟道軒誌

ト

瘵陰隱逸傳終

瘵陰隱逸傳跋

瘵陰先生既隱澆志

大志コ山シ歎テ曰ハ衆人皆

起ヲ吾獨瘵ナ不義而聞ホ

且穴ツ於ケ於テ如ニ浮ル去ル吾ハ免ス

表

其勢マラフ如矢ヤ於チ見ミタヨリ湯コ至ヤテ
 鮮ナク癘ナク乎ナク一ハの謂イフ大陰オホマラフ冬フユ
 惜イ來キ其ナ癘ナク如シテ鼓ツツ而其ナ
 不起ルコラフユテ如シ木也キ嗚呼ウフ勢マラフ
 骨ホネ之ノ強ツヨク岳カ稜リ之ノ高タカク不レ

逢ホト一ハ再ニ興キ穴ケツ公ノ泣ナク擗カ一ハ
 年ヒト弄ズリ已ヨリ之ノ其ナ起キ也ナ寧ニ
 癘ナク陰ナク之ノ時トキ象シ火ヒ冬フユ來キ
 唐カラ之ノ唐ノ人ヒト曰ク孔コ子ノ不レ逢フ
 時トキ予ハ癘ナク陰ナク先マ生シ之ノ云フ

友

皇和明和戊子春二月

後學陳勃姑書于勢

臭齋



